特別支援教育実践マニュアル 幼稚園・保育園

<No.3>

～ADHD（傾向）のある子へのサポート特集号～

特別支援教育実践マニュアル〈No3〉をお届けします。

人は、置かれた状況に対し、自分なりのやり方で対処しようとします。発達障がい（発達の偏り・遅れ）のある子も然りで、その子なりの対処行動をとります。しかし、その対処行動は往々にして不適切なものになりがちです。

このマニュアルでは、発達障がいのある子の示す「問題行動（気がかりな行動）」を、「**その子なりに適応しようとして試みた不適切な行動**」として理解し、支援の具体的な手立てを提案します。なお、ここに挙げる支援の手立てはどれも、発達障がいのない子にも有効です。

本市では、特別支援教育の重要なツールとして、「個別の指導計画」の活用を奨励しております。その活用については、子どもとの1対1の関係を大切にしつつ、学級経営の中に組み込むことが重要となります。本マニュアルがその一助となれば幸いです。

こんなタイプの子、クラスに何人かいませんか？

- 事例8 友だちの物を取り上げたり、気ままに教室から出たりしようとする。
- 事例9 思い通りにならないと、すぐに泣いたり怒ったりする。
- 事例10 テンポが遅く、お集まりのときもボーッとしていることが多い。

浦安市教育委員会
教育研究センター

「落ち着きがなく、不注意で、衝動的」になる理由…それは

ADHD（傾向）のある子は、どうして「落ち着きがなく、不注意で、衝動的」なのでしょうか。それは彼（彼女）らが、“したいこと”を一時的（瞬間的）にでも保留することが苦手だからです。保留することが苦手だと、幼稚園や保育園の集団場面では、さまざまな不適応行動を起こしやすくなります。

保留するのが苦手なので…

① 自分の姿が見えにくい

ADHD（傾向）のある子は、“したいこと”を一時的（瞬間的）にでも保留するのが苦手なので、気持ちが外側にばかり向かいます。その結果、自分の姿が見えにくくなります。自分の言動をモニターすることが難しいのです。モニターが難しいと、ちょうど、イヤホンで音楽を聴きながら人に話しかけようとして自然と声が大きくなってしまうように、行動の調整が難しくなります。このように、自分の行動が見えにくく、調整するのが難しいと、しゃべり過ぎたり、やり過ぎたりしてしまいます。他の子のじゃまばかりしたり、乱暴したりしてしまう子もいます。極端に場面の切り替えが苦手な子もいます。

保留するのが苦手なので…

② 結果をすぐに求めてしまう

“したいこと”を保留するのが苦手だということは、何かにつけてすぐに結果を求めてしまうということでもあります。友だちに一方的な関わりを求めていき、自分の思い通りの反応を相手の子が返してくれないと途端に乱暴なことを言ったりやったりします。また、友だちと競り合って負けそうになると態度を急変させ、ふてくされたりもします。すぐに泣いたり怒ったりして、感情で相手（特に大人）を動かすことに躍起になる子もいます。手っ取り早く力ずくで相手（特に友だち）より優位に立とうと躍起になる子もいます。結果を追い求めるあまり、強い刺激や危険なことを好み、無茶な行動に出る子もいます。

保留するのが苦手なので…

③ わき道に逸れて戻って来ない

お集まりやお着替えのときなど、子どもたちはちょっとした合間に気持ちを逸らします。例えば、先生の説明がひと段落した、自分の番が終わった、上着を脱いだ、など。そして、隣の子にちょっかいを出したり、窓の外を眺めたりします。このとき、たいていの子どもはメインの活動に向けていた意識を保留しているので、いったん外した気持ちを再びメインの活動に向けることができます。ところが、メインの活動に向けていた意識を保留しておくことが難しい彼（彼女）らの場合、いったん外した気持ちはどんどん外れて行ってしまいます。こうして不注意が常態化し、おふざけも高じていきます。

保留するのが苦手なので…

④ 手順を覚えて実行するのが難しい

3～4才ではあまり目立たない特徴ですが、制作やお遊戯の場面などで、手順の説明を受けてもなかなか理解できない傾向があります。理解力の問題ではありません。短期記憶の容量が少ないので、冗長な説明を理解するのが難しいのです。「ああして、こうして、それから…」と一度にいくつもの指示を覚えて実行するのは困難です。

ADHD（傾向）のある子への支援の手立て

こが支援のポイント！

ADHD（傾向）のある子の不適応行動は、集団の規律を乱す場合が多々あります。そして、分かっているのにやらない、何度言ってもやり過ぎてしまうといった態度は、本人の気持ち次第のようにも思えてしまいます。彼（彼女）らの不適応行動の背景には前記①～④のような、本人にはコントロールの難しい問題がある、ということを意識して支援しましょう。

事例8 友だちの物を取り上げたり、気ままに教室から出たりしようとする。

Hちゃんは、いつもテンションが高く、おふざけが大好きで、お集まりのときなどもじっとしていられず、ちょっとした活動の合間には必ず余計なことをしてします。友だちが手にして遊んでいるおもちゃも力ずくで取り上げてしまいます。ときには教室から飛び出して行ってしまうこともあります。さて…

Hちゃんへのサポートの方法

●**身体接触：**できるだけHちゃんの体に触れて声かけをしてあげます。ちょっとした身体接触が、ひまつぶしを始めた子どもの意識水準をほどよく調整します。

●**再枠づけ：**教室から出たくなったら、（補助の先生がいても）必ず担任の体をポンポンしてから出て行くようにさせます。非社会的な行為も、決められた形で承認されることで社会性を帯びてきます。

●**代替物の提示：**間がもたないときに「これならやってていいよ」と渡せるアイテム（コマやパズルや粘土etc.）をとりそろえておきます。それをしながら、ときおり、他の子の活動に気持ちを向かわせます。

●**お集まりの前の運動：**教室で落ち着いた活動をする前や、ホールに集まるときには、静かにしていられやすくするためにも、前もってしっかり運動させておきましょう。

●**タイムアウト：**泣いたり怒ったりといった興奮状態が続いている間は、言い聞かせなどの刺激は避け、場所を変えて気持ちが鎮まるのを待ちます。

●**代替案の提示：**してはいけない行動を分からせようとするのではなく、代わりにしても良い行動を具体的に伝えます。この場合、みんなの前で叱るというのは、最も避けたい対処です。

●**うまくいったシナリオ：**どんな些細な場面でも、穏やかな気持ちで友だちに働きかけている場面をみつけてほめます。子どもが良い自己イメージに沿って行動できるよう支援します。

●**他の子の満足度：**「Hちゃんだけどうして？ズルイ！」などと訴えてくる子には、「あなたも頑張って○○をしていること、先生は知ってるよ」と認めてあげます。Hちゃんのことを説明するのは二の次です。

事例9 思い通りにならないと、すぐに泣いたり怒ったりする。

Jちゃんは、友だち同士の遊びの最中、ちょっとでも思い通りにならないと大声で泣いて訴えてきます。物凄い被害にあったような泣き方をしていたかと思うと、ちょっとしたはずみでケロッとしてしまいます。さて…

Jちゃんへのサポートの方法

●**人を動かす感情：**怪我の場合を除き、かたくなな気持ちにさせないためにも、泣けない子から声をかけます。感情で相手を振り回さないことを学習するためにも、Jちゃんは後回しにします。

●**自己決定感：**Jちゃんには、他の子以上に、自分で物事を決めているという感覚が必要です。みんなの役にたつ係を担わせたり、お片づけの範囲を自分で決めさせたりして、励ましてあげましょう。

●**感心：**ADHD（傾向）のある子は発想が豊かです。大人の価値観からすれば、たわいない着想に対し、意図的に「へぇ～」「なるほど！」と感心して、自己肯定感を高めてあげましょう。

事例10 テンポが遅く、お集まりのときもボーッとしていることが多い。

Kちゃんは、お集まりのときなどボーッとしていることが多く、先生の話を聞いていないことがしょっちゅうです。テンポが遅く、友だちとの遊びにも乗り遅れてしまいがちです。そんなKちゃんは、折り紙やお絵かきなどの製作活動が特に苦手です。さて…

Kちゃんへのサポートの方法

●**説明の拠点：**クラス全体の子どもへ課題の説明をするときに、Kちゃんの近くから全体に向かい、Kちゃんの材料を例にとって説明します。Kちゃんの意識が製作活動から外れにくくなるだけでなく、注目を得た感覚により、Kちゃんの気持ちが安定方向に向かいます。

●**出来上がりのイメージ：**Kちゃんは、最終的に何をするのか、どんなふうになったらいいのかがイメージできないまま参加しているので、先生の説明を聞き逃して困っているときも、自分だけ準備できずに困っているときも、困ったふうな態度をとらず、そのままぼんやりしているのです。Kちゃんには、少しだけ手を加えれば完成するよう、あらかじめ途中まで作っておいた物を渡して参加させたり、お集まりでの活動も、途中まで手を引いて一緒にしてあげたりすることで、出来上がりのイメージを作ってあげましょう。

「ADHD（傾向）」といっても、その発達障がいの程度は子どもによりさまざまです。ここに挙げた手立てについては、子どもの発達段階に合わせて工夫する際の参考例として活用してください。"ちょっとした工夫"…それが特別支援です。

教育研究センター（美浜北小学校内）
☎381-7960・381-7961

まなびサポート相談室（見明川中学校内）
☎390-5204